

「新臨床外科学」第4版

武藤徹一郎・幕内 雅敏 監修
川崎 誠治・佐野 俊二・名川 弘一 編集
野口眞三郎・平田 公一 編集協力
渡邊 聡明 編集協力

東北大学教授・心臓血管外科

田 林 暁 一

本書は2006年に医学書院から出版された。監修は武藤徹一郎癌研究会有明病院院長と幕内雅敏東京大学大学院教授で、編者を含め158名の分担執筆から成っており、若手外科医の外科的素養を高める目的で企画、執筆された著書である。

内容は外科学を学ぶために必要な基礎的知識(病理学、侵襲と生体反応、輸血、免疫学、代謝栄養学等)、創傷に対する救命救急の基本的技と必要な処置、胸部外科、腹部外科および内視鏡外科に関する基本的手技、そして種々の外科的疾患

の病態と治療法から成っている。特に、外科的疾患としては消化管、肝胆膵、脾臓・門脈、イレウス、乳腺、呼吸器、心臓大血管、頭頸部体表、内分泌外科、小児外科に分類され、それぞれの分野の代表的疾患について概念、病理・病態生理、臨床所見、検査所見、診断、治療、予防に関して簡潔明瞭に記載されている。図およびイラストが多く取り入れられ、病態および治療法が一目でわかるように配慮され、特に掲載されているカラー図は明瞭で見やすい。

本書は医学部学生の外科学ベッド・サイド研修、自己学習、および卒後初期・後期研修時の教科書的内容を目指して企画、編集されたものであるが、その目的に十分値するものと思われる。外科学の基礎的知識と種々の疾患の病態を、机上でいかにも眼前にそれぞれの疾患症例がいろいろな感じで学ぶことができる名著で、まさに臨床に即した本であると思われ、推薦に値する。

● B5 頁1304 2006 定価24,150円
(本体23,000円+税5%)

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)